

学校 教育 目標	豊かなかかわり合いの中で学び合う子どもの育成 ～まちと共に、汐入っ子一人ひとりを育てます～ (知)基礎・基本を身に付け、学び合いを大切に自ら考え自ら学ぶ子ども (徳)自らを律し、自他を大切にする子ども (体)基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康な子ども (公)まちを愛し、まちのために行動する子ども (関)多様性を認め合い、共に生きようとする子ども				
	学校 概要	創立 65 周年	学校長 小黒 裕子	副校長 新谷 亜希子	2 学期制
児童生徒数:		192 人	主な関係校: 寛政中学校、入船小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	寛政中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
寛政中学校ブロックで育成を目指す資質・能力 「基礎学力」「規範意識」「協働性」 本校で育成を目指す重点的な資質・能力 「自分をつくる力」	寛政中学校 入船小学校 汐入小学校	基礎的・基本的な学力を身に付け、それを活用することができる子ども。基本的な生活習慣を身に付け、健康を維持できる子ども。マナーを守り、他者への思いやりをもち、他者とコミュニケーションをとりながら協働できる子ども。 ・小中ブロックの授業参観・協議会や小学校重点研の研究交流を充実させ、小中連携して授業改善を図る。 ・小中交流日や個別支援学級交流日の活動を充実させるとともに、小学校行事等への中学生の参加を通して連携・協働意識を高める。 ・寛政中学校区のスタンダードに基づいた指導を通して、規範意識を育てる。

中期 取組 目標	<p><誰もが安心>多様性を認め合い、誰もが安心して学校生活を送ることができるようにします。</p> <p><楽しい授業>子ども自ら問題を見だし、自ら学ぼうとする授業づくりを推進します。</p> <p><ルールを守る>家庭と連携を図り基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図るとともに、ルールやマナーを身に付けた子どもを育てます。</p> <p><大好き汐入のまち>まちとのつながりを深め、豊かな体験活動を通してまちを愛する心を育てます。</p> <p><元気なチーム汐入>教職員が協働・連携し合う、活気ある学校をつくります。</p>
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①重点研究テーマを「自ら思いをもち、かかわり合いを通して豊かな自分をつくる子ども」と設定し、生活科および総合的な学習の時間を中心に、地域の「ひと・もの・こと」と関わる体験活動を通して、問題発見する力や事実を正確に把握し、互いの考えを伝え合う力の育成に取り組む。 ②基礎的知識・技能を身に付けるための指導を繰り返す。
担当	研究推進委員会	
徳	道徳教育	①年1回、ブロック内で道徳科の授業を見合い、子どもの姿をもとに授業改善を行っていく。 ②重点目標に設定している内容項目を指導する際は、子どもたちに問題意識をもたせるために、日常の経験や学級での取組をきっかけにして振り返り、自分の思いや考えを伝え合い、道徳的価値を実現するよさについて考えていけるようにする。
担当	道徳部	
体	健康教育	①保健学習や保健指導、食育を通して、「適切な運動・バランスのとれた食事・適切な休養及び睡眠」の必要性を理解できる機会を確保する。 ②朝スポーツの時間や休み時間などを活用した集会活動を通して、自己や学級の目標に向かって楽しく体を動かす活動を取り入れる。
担当	体育部	
公 開	自分づくり教育	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で自分の思いや願いを表現しながら一人ひとりが自己有用感を高められるようにする。 ②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにする。
担当	教務部	
児童指導		①子ども・保護者の気持ちに寄り添いながら共感的にかかわり、適切な連絡・相談を通して信頼関係を築くことで、安心して学校生活を送れるようにする。 ②児童支援専任を中心に報告・連絡・相談体制確立し、SCやSSW、関係機関との連携を図りながら、組織的に児童を支援する。 ③全ての職員で子どもをとらえ、速やかに情報共有することで、いじめの早期発見と対応をチームで行い、いじめ防止対策委員会で早期解決を図る。 ④特別活動や横浜プログラムの活用、人権週間の取組などを通して、だれもが安心して過ごせる学級づくりに努める。 ⑤「寛政中学校区のスタンダード」を盛り込んだ「学校のきまり」を家庭と共有し、学校と家庭の双方で指導にあたり、規範意識の育成を図る。
担当	児童指導委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①学年ブロック制や一部教科担任制により教員の協働性を高め、連携して児童指導や授業改善を行う。 ②全教職員で毎週打ち合わせを行ったり、ミラ임で情報を共有を使用したりすることで組織的な運営を図る。 ③定期的に教務会を開き、主幹・主任の企画力・運営力・調整力を生かし高めながら学校運営の充実を図る。 ④経験の浅い教員を中心にメンターチームを組織し、指導力向上を目指した研修会を毎月行う。
担当	教務部	
多文化共生		①多様性を認め合い、それぞれの文化や考え方を尊重した生活を送ることができるようにする。 ②国際教室を設置し、日本語能力の向上・教科学習での学力向上を目指すとともに、自らの文化に誇りと自信をもって生きていくための支援をする。 ③国際理解教室や道徳、生活科、社会科、総合的な学習の時間を通して、いろいろな人の考え方に触れることで、互いを認め合う心を育む。
担当	国際教室担当	
地域学校協働活動		①教職員が地域行事に参加することで、地域とのかかわりを深める。 ②地域の教育力を生かし学援隊、計算道場、昔遊び、地域清掃などの活動を充実させ、子どもの健全育成を図る。 ③学校運営協議会の委員に行事や取り組みを説明したり、授業の様子を見ていただいたり、学習活動に協力していただいたりすることで、学校教育目標を共有し、連携してよりよい学校をつくっていく。
担当	教務部	
特別支援教育		①特別支援教育コーディネーターを中心に関係機関と連携してコンサルテーションや特別支援教育研修の充実を図り、子どもとのかかわりや学級経営、授業の改善に生かす。 ②特別支援教育担当と担任が連携し、少人数のきめ細かな指導の充実を図る。 ③協働して学習するよさを実感できるよう、個別支援学級と一般学級の児童の共同学習をする機会を意図的に設ける。
担当	特別支援委員会	
担当		a25